

## 2017年谷津田保全活動への抱負

皆さん、新年をいかがお迎えですか？ 本年も谷津田の活動へのご支援をよろしく申し上げます。  
年初に下大和田や小山の谷津田で活動している皆さんに、今年の抱負を語っていただきました。

### ★下大和田

- ① CEIC 20年の記念事業「下大和田生きもの図鑑」をCEICの総力で充実したものに仕上げたい。（完成は来年の予定ですが。）② 健康を維持し、下大和田のイベントに皆勤したい（網代春男）。
- 今年は前年を上回る収穫量を目指す？今回はコシヒカリと緑米を植える予定です（石井伸）。
- 今年は緑米を育て、そこについた麹菌を増やして、美味しいものを作りたい（石井美佐代）。
- マイ田んぼを辞めてからは、谷津田に行く体力／気力が萎えたように感じます。足・腰の痛みと相談しながら、行ける時／行きたい時に参加したいと思います。出来るだけ、自然に触れ合い、皆と作業する機会を持ちたいと思っています（石橋紘吉）。
- 下大和田YPPのイベントは欠かさず参加し、スタッフとして皆さんの活動の支援に努めること」を目指します（小田信治）
- 今年は孫たちを谷津田に連れていく機会を増やしたいです（小西由希子）。
- 皆さんと一緒に谷津田の自然を楽しみながら保全活動をしたいと思っています（渋谷雄二）。
- 小山の作業と調整しながらの参加となってしまいますが、小山と異なる自然を楽しみながら米づくりに取り組みたいと思います（高山邦明）。
- ちば環境情報センターは、設立20周年を迎えました。今年は記念誌出版に向けて、編集作業を充実させていきたいと思っています（田中正彦）。
- 昨年のお米作りは8、9月の台風で色々と苦労しました。今年は天候に強い稲作をテーマに取り組みたいと思います（田村光範）。
- まずは自分が谷津田で楽しみたい、大好きな谷津田の自然を満喫したい。そして多くの人に谷津田を楽しんでもらいたい。そのお手伝いがしたいです。（平沼勝男）。
- 20歳になったちば環境情報センターの活動が楽しいと思ってもらえるよう、谷津田運動会や探検会を中心に盛り上げたいと思います（南川忠男）。
- 子どもたちを誘って、米づくりにたくさん参加したいです。お天気に恵まれましように（吉田紀恵）。



鳥のクラフト（渋谷雄二さんの作品）

### ★小山

- 稲富ファミリーの抱負
  - \*直彦（父）：先人、仲間、谷津田に学び、初心に返り、一年歩いてまいります。
  - \*理枝（母）：今年も変わらず、田んぼに来てくれる子ども達の、きらきら輝く笑顔に沢山会える様に頑張ります。
  - \*晴彦：なかなか田んぼに行けなかったのが、今年は田んぼに度々行ける様にしたいです。
  - \*真理：レアな生物を発見したい。
- 無理なく、楽しく！（今川友子）。
- 以前と比べて田んぼに行ける日が少なくなっていました。地元の方をはじめ、スタッフ、学校田んぼのお手伝いに来て下さる保護者の方など、田んぼにかかわるすべての方々へ感謝しつつ、田んぼに行った時には楽しく一生懸命作業したいと思います。（江澤芳恵）。
  - ・昨年から夫婦で参加させていただいてますが、毎回新しい発見や体験をさせていただいております。楽しく活動できるのは、受け入れてくださる皆様のおかげです。昨年は年末に体調不良などであまり参加できなかったのが、今年は、継続して参加できるようにしたいと思っています（近藤陽子&マーク）。
- 田植えができない田んぼの出現、あぜの荒れ、ひどくなる雑草…と難題が山積みですが、無理のない範囲で少しずつ改善していきたいと思っています（高山邦明）。
- 昨年は、子どもたちの前でお話させていただく機会をたくさんいただきましたが、作業のHow toや注意事項を説明するくらいしかできませんでした。網代さん、高山さん、赤シャツおやじさん、武井さんのように専門知識をまじえ、興味深いお話ができれば…と何度も思いました。今年は、生き物の生態はもちろんのこと、命を育む田んぼを巡る生き物のつながりなどについて勉強していきたいなと思います（松下恵美子）。
- 稲刈りするぞ！（柳町健治）。
- 欲張らず、できることをコツコツと（米澤美紀）。



初日の朝日が差し込み始めたあすみが丘と小山の谷津  
(2017年1月1日 by 高山邦明)

# 2016年の下大和田のお米の生育状況

昨年の下大和田の米づくりは、4月2日の苗代への種まきに始まり、田植えは5月14日、稲刈りはコシヒカリと農林一号が9月22日、緑米と黒米、赤米が10月22日に行われました。

気象データを見ながらこの間のお天気の様子と稲の生育状況を振り返ってみたいと思います。

4月から6月にかけては気温が平年よりも高めで、苗代の苗は順調に育ち、田植え後も田んぼで稲がグングン生長してくれました。梅雨入りは平年よりも3日早い6月5日だったのに対し、梅雨明けは7月28日と平年より8日遅くなりました。その影響があっただけでなくコシヒカリの出穂が遅れ、出穂がだらだらと長く続きました。8月は中旬以降に3つの台風が千葉県に上陸するという異常気象で、降水量が多く、日照が非常に少なくなりました。出穂後のコシヒカリはお米の実りがうまく進まず、台風の風で稲が倒れる被害もありました。日照不足の傾向は9月に入っても顕著で、古代米の生育も影響を受けたようです。

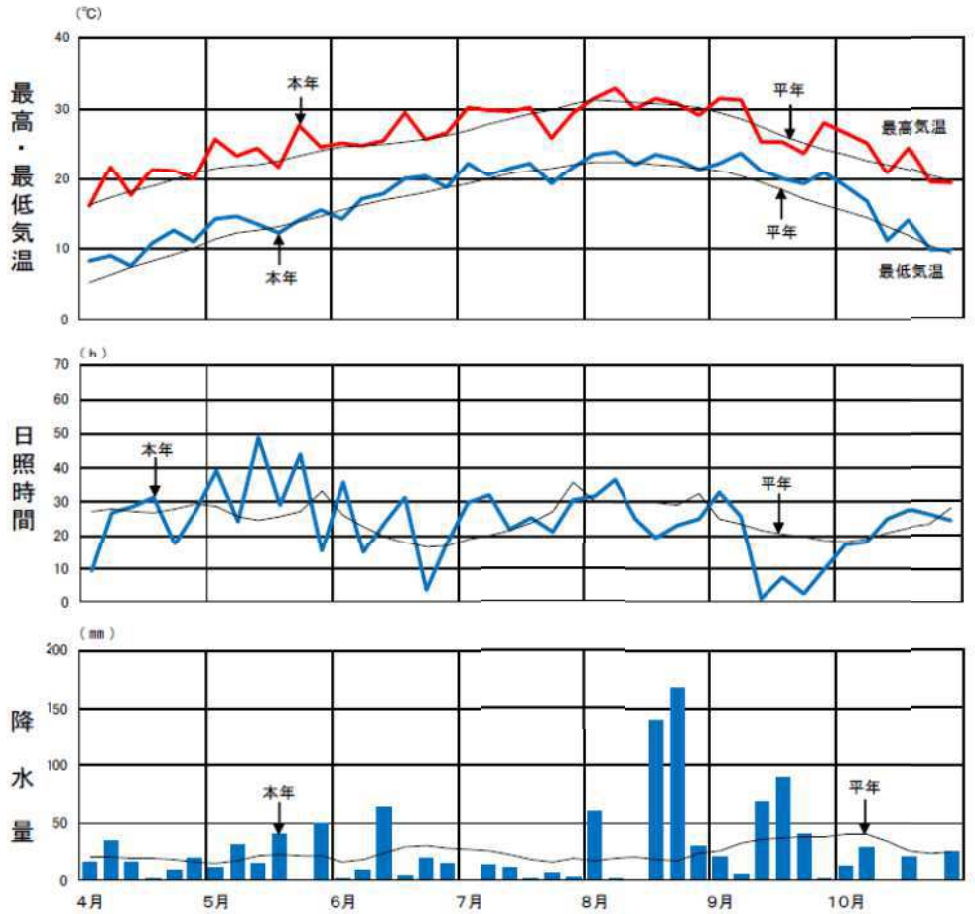
8月13日のYPPのイベントではみんなで田んぼに入り、コシヒカリのモミ数を数えて、今年の実り具合を調べました

(下図)。

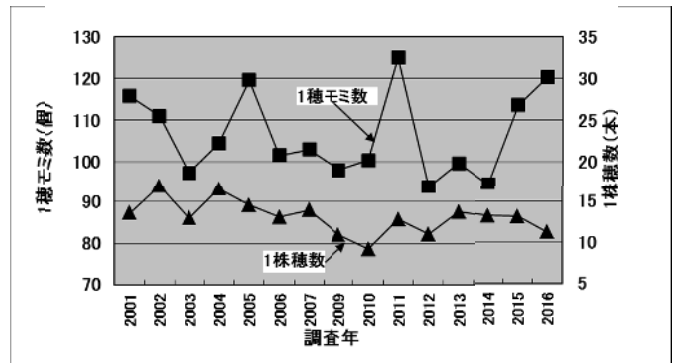
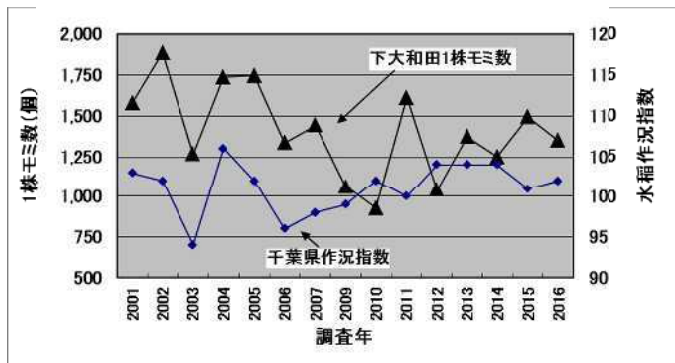
今年は一株あたりの穂の数は平年

よりやや少なめでしたが、一つの穂に付いたモミの数が昨年よりもさらに多いのが特徴的でした。農政局の千葉県の統計でも同じように穂数がやや少なく、穂あたりモミ数が多いことが報告されています。コシヒカリ生育期の高温のおかげでしょう。しかし、8月中旬以降の日照不足、多雨の影響で、稲に付いたモミの生育(登熟)がうまく進まず、モミは小さめで、実らないモミ(しいな)が多くなってしまいました。去年に続いて、今年も稲刈りの時に株がずいぶん軽いと感じました。千葉県の統計ではモミの数が多かったことが登熟の悪さを補って、作況指数は102とほぼ例年並みとなっています。

9月の日照不足の影響で古代米の緑米は分けつや実りが少なく、今年もモミに緑色のカビの塊ができる“稲こうじ(いなこうじ)病”が発生しました。



2016年の佐倉の半月別気象～関東農政局統計部の資料より



(高山邦明)





# 里山たんけんレポート

## 第202回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2016年12月4日(日) 晴れ

11月24日の大雪でヨシなどの草が倒れ見晴らしが良くなり、鳥が見やすくなっていて、期待したのですが声も少なく姿を現しません。それも納得、なんとオオタカ、ノスリ、ハヤブサの猛禽3種が出現、オオタカは2度姿を見せました。ハヤブサはここでは珍しく初記録です。他の鳥は声だけで姿を見たものは少なかったもののルリビタキ♀がいました。鳥は17種を確認しました。

虫はホソミオツネトンボとキタキチョウ、ツマグロオオヨコバイが見られた程度。例年まだ見られるアカネの仲間が雪でダメージを受けたか姿は一つも見られませんでした。コバネイナゴも例年より少なくなっていました。ツルウメモドキ、ノイバラ、オモト、ヤブコウジ、マンリョウ、カラタチバナ、カラスウリ、マムシグサ、フユイチゴなどの赤い実、ヤブミョウガのサファイヤのような色の実など楽しみました。フユイチゴは皆で摘んで味わいました。

(参加 大人17名、留学生2名、小学生7名、幼児4名；報告：網代春男)

## 第200回 下大和田 YPP「収穫祭」

2016年12月10日(土) 晴れ

今年最後のイベント、収穫祭を行いました。下大和田 YPP の第200回目の記念すべきイベントでもありました。ちょっと風が強かったのですが、たっぴりの日差しが注いでくれたので寒さを感じることはありませんでした。収穫祭の目玉はみんなで育てた緑米のおもちつきです。せいろで蒸かして、臼と杵でつきます。ヨイショー、ヨイショーのかけ声に合わせて、みんなでつきました。子どもたちは長い行列を作って自分の番を待つほどの人気でした。ホカホカのおもち、自分たちで収穫したお米のおもちは格別のおいしさで、ついた端からどんどんみんなの胃袋に収まってきました。おもちのほかに、こちらもみんなで育てたコシヒカリを羽釜でたいたご飯、焼き魚、焼きイカ、焼き鳥、焼き芋、お汁、里芋・コンニャク田楽などなど豊富なメニューにお腹いっぱい。竹とんぼや弓矢づくり、ウルトラクイズなどアトラクションもあり、冬の谷津での楽しい一日でした。

(参加 大人41名、中学生6名、小学生26名、幼児10名、報告 高山邦明)



## 第135回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

2016年12月17日(土) 晴れ

小山で米づくりをしている田んぼの中に、傾斜のある小さな枝谷津の棚田があります。曇り気のないとても素敵な田んぼなのですが、落差がある田んぼまで問題になるのは水漏れです。この棚田でも水漏れがひどく、ところどころあぜが崩れていることから、冬の間に補修をすることにしました。米づくりをしている間、直しても直しても水漏れしてしまう箇所は一度、畦を大きく崩して大がかりな修理をしました。修理の間、水が入らないように溝を切ったり、堰を築いたり、そして畦を掘り起こしたりとなかなか大変な作業になり、今回は一つの畦を掘り起こすところまでで精一杯でした。何とか春の田起こしに間に合わせたいと思います。他にあぜ道の草刈りもしました。朝は畦に霜柱が立ち、田んぼに氷が張るほどの寒さでしたが、力仕事で汗ばむほどでした。

(参加 大人5名、報告 高山邦明)



## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 12月 9日 枝谷津の奥でひっそりとリンドウが咲いていた（高山）。
- 12月 17日 畔を掘り起こしていると お腹の大きなシュレーゲルアオガエルが出てきた（高山）。
- 12月 23日 アカゲラが斜面林を渡り歩いていた。カラスに追われてノスリが飛びだす（高山）。
- 12月 30日 畔補修の作業あとの田んぼにルリビタギが来て餌を探していた（高山）。

### 下大和田

- 12月 10日 アシ原にベニマシコの姿。しきりに地鳴きを発していた（高山）。
- 12月 16日 田んぼ全面が凍った（網代）。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

### ▼下大和田 YPP 第 201 回「どんと焼きと昔あそび」

年明け最初は恒例のどんと焼きです。かかしのお焚き炊き上げをし、火を囲みながらベイゴマなど昔ながらの遊びを楽しみます。

日 時： 2017年 1月 14日（土） 9時 45分～14時 ☆小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 9:45（JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:25、8:40 など> 料金は 520 円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、正月飾りなど燃やしたいものなど。

参加費： ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主 催： ちば環境情報センター 共 催： ちば・谷津田フォーラム

### ▼第 205 回 下大和田 2 月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの産卵が始まる頃です。卵塊のカウントと冬鳥を求めて谷津を巡ります。

日 時： 2017年 2月 5日（日） 9時 45分～12時 ☆小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

### ▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2017年 1月 7日（土）、1月 20日（金）いずれも 9時 45分～14時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物：飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

### ▼第 136 回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

前回に続いて、田んぼのあぜの手入れをします。穴を掘ったり、土を運んで盛ったり、寒い季節ですが体ホカホカになる作業です。

日 時： 2017年 1月 21日（土） 10:00～12:30、小雨決行

場 所： 千葉市緑区小山町の谷津（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター

**編集後記** 新年あけましておめでとうございます。今年も下大和田や小山での谷津田保全活動にご協力をよろしくお願い申し上げます。今回ご報告しましたように昨年の米づくりは一昨年と同様、8～9月の天候不順で収穫が今ひとつでした。天気ばかりはどうしようもないのですが、プロの農家であれば天候が悪いときにいかに影響を少なくするのが腕の見せ所です。下大和田での米づくりは今年で 17 年め、小山は 12 年めになります。腕は一向にあがらず、毎年作業に追われる慌ただしい稲作で、天候に左右された収穫になっていますが、米づくりを通じて育まれる生きものたちも大きな収穫です。長く続けることが大切。今年も田んぼを楽しみたいと思います。（高山 邦明）